

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）事後評価結果

大学名	筑波大学
整理番号	r-3
事業名	ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	<p>本プログラムは、ロシア語圏諸国と交換留学（6～12か月／双方向）、海外研修（2～4週間／派遣学生対象）、医療実務研修（3～6週間）及び日本語・日本文化研修（2～4週間／受入学生対象）により、マルチリンガル人材と実務能力を有する人材を育成し、大学キャンパスの国際性の日常化を実現することを目指して実施されたものである。</p> <p>全学的なGPA制度に加えて、「筑波スタンダード」による授業開設や、成績管理・評価システムの活用、積極的なFD研修、受入学生に対する指導教員・プログラム担当専任教員・チューター学生の3名体制の実施やグローバルcommons機構によるシングルウィンドウ化の推進といった取組が評価できる。インターンシップにおいては評価項目シートの導入による標準化を行い、単位取得学生数についても質の確保を図りつつ目標を達成している。また、カザフ国立大学とのキャンパス・イン・キャンパス構想を見据えた協定締結により単位互換の制度化の実現に向け協議が行われている。このほか、シンポジウムや学会等の機会はもちろんのこと、ウェブサイトでの日露2か国語対応やロシア語圏で広く情報発信することでプログラム参加大学の拡大を図るなど、プログラムの積極的な広報活動により全学型の取組モデルの周知に努めた点も高く評価できる。</p> <p>一方で、交流相手先大学を増やしたことも相まって、学生の派遣・受入数は計画の2倍近くに達しているものの、その推移には年度ごとにばらつきが見られる。また、日本人学生のロシア語達成率や英語力の基準到達目標がそれぞれ未達であるなど、学生の語学力に関する課題への対応や、プログラムと「マルチリンガル人材」という人材像の結びつきの明確化、あるいは相手大学数の増加に伴い単位互換の整理表を整備するとともに標準化かつ共有化を進めていくことが求められる。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、外部資金等による事業展開に向けた自主的かつ恒常的な活動実績を基に、引き続き質保証を伴うプログラムを実施することで、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことを期待する。</p>